

電磁波から身体を守る: マイナスイオン効果

電磁波は危険!! ESCセラミック 20・50で防御



20 × 20mm マイナスイオン1770個



50 × 50mm マイナスイオン2019個



200 × 200mm マイナスイオン値2274個



電磁波による身体への影響: 電磁波対策をする事が賢明です。

電磁波が全身に入り、人体に障害を与えます。

片頭痛や、倦怠感、視覚障害、そして臓器障害までも影響が出ます。

又高圧線が家の周辺は体調不良が起きますハイブリッド車対策必要

製品特徴 マイナスイオンの抗酸化作用又極小炭素粒子を加圧浸透させることで、身体内を電磁波から守ります

電磁波シールド効果として『名古屋工業研究所承認』

裏面シールド検査参照

配電盤 50mm

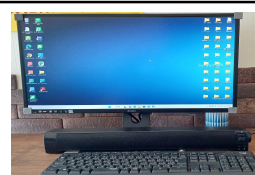


コンセント 20mm 2ヶ所



二口コンセントから
電磁波が発生

パソコン 四隅20mm 4ヶ所



パソコンから
電磁波が発生

電子レンジ内部,外部に50mm



電子レンジは
高周波が発生

ホットカーペット50mm 裏面2ヶ所



ホットカーペットから
電磁波が発生

IH クッキング 50mm



美顔器、ヘアードライヤー、空気清浄機、掃除機、但しアースが設置されている場合は必要ありません

取扱事項: 製品表面に手垢が付きますが、製品自体に問題はありません。

特許出願中

標準価格(税込)

開発元 イシカワクリエイト Healing事業部 090-7048-7174

20 × 20mm	6個入	¥9,900
50 × 50mm	4個入	¥16,500
20mm 4個入 50mm 2個入		¥14,300
200 × 200mm	1個入	¥30,800

電磁波防御試験結果:ESCセラミック

開発依頼者 イシカワクリエイト

愛知県碧南市旭町一丁目23番地2

TEL: 0566-87-9134 (090-7048-7174)

FAX: 0566-87-5138

受付 R4 7/20(水)

実施内容 陶板の電磁波シールド性能評価

実施方法 アドバンテスト法

(供試試験体)

陶板試験片1点(Fig.1)

15 cm角正方形板状

C結晶を粘土中に分散させた燻瓦(依頼者聞取)

(使用機器)

計器 Keysight社製スベアナE7404A型

測定系 アドバンテスト製シールド特性評価器具TR17301型

及び同付属送受信アンテナ4種

※試験体設置面の法線方向をz軸、幅方向をx軸、

鉛直上方をy軸と定義する(Fig.2(b))。

(測定条件等)

計器設定	①(高域)	②(低域)
周波数	10 MHz~1 GHz	1 MHz~100 MHz
ResBW	10 kHz	1 kHz
VBW	10 kHz	1 kHz
掃引時間	1 sec	10 sec

(測定者)

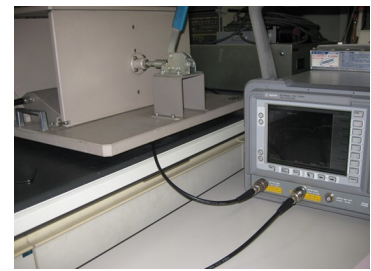
名古屋工業研究室 電子技術研究室
小田 究

Fig.1 試験体外観 150×150×5

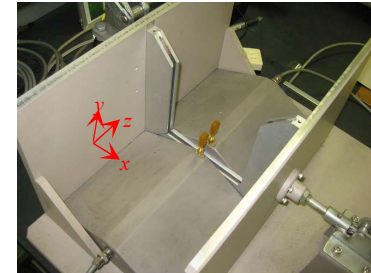


Fig.2 測定系外観

(a)計器部分



(b)試験体及びアンテナ設置箇所部分

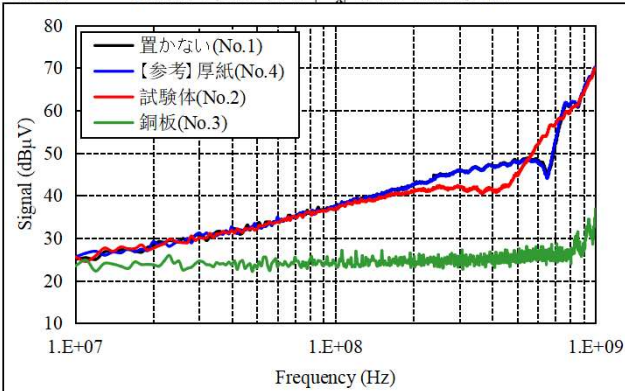


(実験記録)

整理番号	設置物	検出信号	計器設定条件	データファイル	データ採否	備考・所見
No.3	銅板	$ H_x $ Loop Ant I	① 高域	TRACE393.CSV	○	測定系(完全シールド状態)の確認。
No.4	厚紙	$ H_x $ Loop Ant I	① 高域	TRACE394.CSV	○	No.3と同特性の確認。
No.5	置かない	$ H_z $ Loop Ant I	① 高域	TRACE395.CSV	○	測定系(完全シールド状態)の確認。
No.6	試験体	$ H_z $ Loop Ant I	① 高域	TRACE396.CSV	○	No.3と同特性の確認。

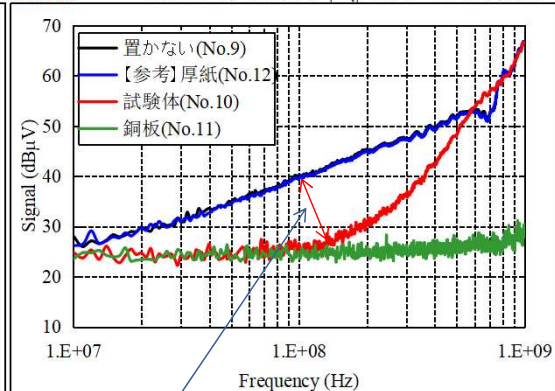
(実施結果)

測定前 No.3 受信信号強度(高域/ $|H_x|$: 幅方向磁界強度)



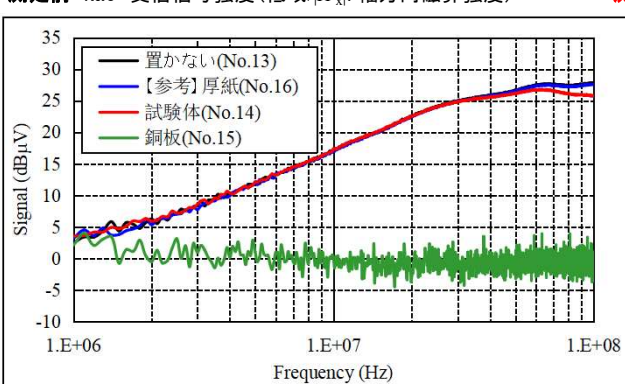
試験体の鉛直方向測定前

測定後 No.4 受信信号強度(高域/ $|E_y|$: 鉛直上方電界強度)



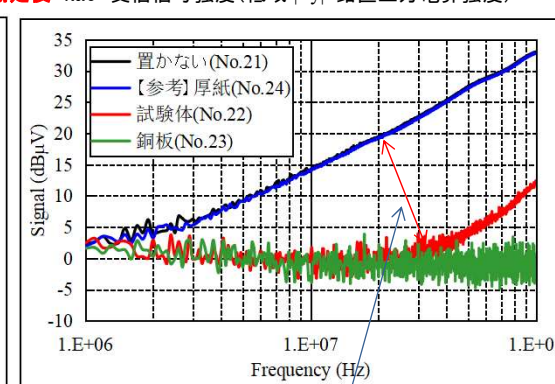
鉛直方向: 青グラフ赤グラフの間隔があるのはシールド効果あり

測定前 No.5 受信信号強度(低域/ $|H_x|$: 幅方向磁界強度)



試験体の幅方向測定前

測定後 No.6 受信信号強度(低域/ $|E_y|$: 鉛直上方電界強度)



幅方向測定後:シールド効果あり

(特記事項)

(1)(総括)数MHz~数100 MHzの広い測定周波数範囲で一定の電界シールド性能が認められる。

試験体を置かない場合と厚紙設置の場合での受信信号強度の特性は一致している。

完全シールドの特性を確認するため、銅板設置での受信信号強度も併せて測定し、Fig3~6の(a)にて図示した。

(2)【参考】アドバンテスト法では、アンテナで信号受信される方向は磁界強度については幅方向及び電界強度については鉛直上方を測定するような設置が、周波数域については10 MHz~1 GHzが通常推奨されている。